

日本国特許庁 JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて いる事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日 Date of Application:

2001年 6月26日

出 顧 番 号 Application Number:

特顧2001-192324

出 願 人 pplicant(s):

株式会社日立製作所

CERTIFIED COPY OF PRIORITY DOCUMENT

2001年 9月17日

特許庁長官 Commissioner, Japan Patent Office





特2001-192324

【書類名】

特許願

【整理番号】

K100313I

【提出日】

平成13年 6月26日

【あて先】

特許庁長官

【国際特許分類】

G06F 17/60

【発明者】

【住所又は居所】

神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地 株式会社

日立製作所 ビジネスソリューション事業部内

【氏名】

勝瑞 万里子

【発明者】

【住所又は居所】

神奈川県川崎市幸区鹿島田890番地

日立製作所

ビジネスソリューション事業部内

【氏名】

光國 光七郎

【特許出願人】

【識別番号】

000005108

【氏名又は名称】

株式会社日立製作所

【代理人】

【識別番号】

100099298

【弁理士】

【氏名又は名称】

伊藤 修

【連絡先】

03 - 3251 - 3824

【選任した代理人】

【識別番号】

100099302

【弁理士】

【氏名又は名称】

笹岡 茂

【手数料の表示】

【予納台帳番号】

018647

【納付金額】

21,000円

特2001-192324

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 企業情報流処理方法と設計帳票作成方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 ある企業の業務活動、外部組織活動を活動名とし各活動名を第1の記憶手段に記憶し、該記憶手段から該各活動名をDFD(Date Flow Definition)マトリクスに読み込み、該DFDマトリクスを表示し、その表示領域上で、前記要素間(活動名間)で授受される情報の名称の入力を受け付け、入力された情報の名称を、情報提供元である業務活動、外部組織と情報利用先である業務活動、外部組織と関連づけて、ER(Entity Relation)元情報として第2の記憶手段に記憶することを特徴とする企業情報流処理方法。

【請求項2】 ある企業の業務活動、外部組織活動を活動名とし各活動名を第1の記憶手段に記憶し、該記憶手段から該各活動名をDFDマトリクスに読み込み、該DFDマトリクスを表示し、その表示領域上で、前記要素間(活動名間)で授受される情報の名称の入力を受け付け、入力された情報の名称を、情報提供元である業務活動、外部組織と情報利用先である業務活動、外部組織と関連づけて、ER元情報として第2の記憶手段に記憶し、前記第1の記憶手段と第2の記憶手段に記憶された情報に基づいて、活動名の情報とその要素間(活動名間)で授受される情報の関連を示すDFDマトリクスを作成し、

活動名の名称や位置が変更或いは削除になった場合、情報名の名称や位置が変更或いは削除になった場合は、前記第1の記憶手段と第2の記憶手段にその内容を反映させることでDFDマトリクスを速やかに再作成することを特徴とする設計帳票作成方法。

【請求項3】 請求項2記載の設計帳票作成方法において、

前記第1の記憶手段に記憶された情報を参照し、活動名の詳細化を行うための SDF (Structured Date Flow)を作成するとき、該第1 の記憶手段の該作成対象の活動名に対しフラグを入力し、それと同じ活動名を有するデータを前記第2の記憶手段から抽出し、該抽出したデータを用いてSDF 入力画面を生成することを特徴とする設計帳票作成支援方法。

【請求項4】 請求項3記載の設計帳票作成方法において、

ある活動名のSDF入力画面に対して、その詳細化活動名の入力を受け付け、 入力された詳細化活動名を前記第1の記憶手段に書き込み活動名の更新処理をし 、該活動名の更新処理をした第1の記憶手段と前記第2の記憶手段に記憶された 情報に基づいてDFDマトリクスを再作成することを特徴とする設計帳票作成支 援方法。

【請求項5】 請求項2記載の設計帳票作成方法において、

前記第1の記憶手段と前記第2の記憶手段に記憶された情報に基づいて業務機 能設計テーブルを表示し、該テーブルの各エントリの指定領域に対し機能項目の システム化要件を入力して新機能記述書を作成し、該新機能記述書を第3の記憶 手段に記憶し、印刷することを特徴とする設計帳票作成方法。

【請求項6】 請求項2記載の設計帳票作成方法において、

前記第1の記憶手段と前記第2の記憶手段に記憶された情報に基づいて業務情報設計テーブルを表示し、該テーブルの各エントリの指定領域に対し情報項目のシステム化要件を入力して入出力情報項目一覧を作成し、該入出力情報項目一覧を第4の記憶手段に記憶し、印刷することを特徴とする設計帳票作成方法。

【請求項7】 請求項2記載の設計帳票作成方法において、

ある企業の実際の業務運用を考慮し、前記第1の記憶手段と前記第2の記憶手段からそれぞれ活動名と情報名を読み出し、時系列に該読み出した活動名と情報名を交互に選択し、その選択活動名と情報名と順序を第5の記憶手段へ記憶し、該記憶手段から記憶内容を順次読み出すことによりイベントトレース図を作成することを特徴とする設計帳票作成方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】

本発明は、企業活動における新業務の設計プロセスの標準化・自動化を支援するツールに関する。

[0002]

【従来の技術】

規制緩和、グローバリゼーション等激しい環境の変化や、それに伴う世界規模での企業間競争に対応し、経営戦略と密接な関連のある情報システムを再構築する企業は多い。

また単なる省力化だけではなく経営の基盤としての役割を担う情報システムに 対する、ニーズは大規模化、高度化、複雑化している。

しかしこのニーズと二律背反の関係にある、情報システム構築の短期化も、大 競争時代を背景に強く求められており、これに伴い従来、属人的であり手作業が 多い故に非効率である傾向が見られた情報システム設計作業の効率化が強く求め られている。

各社では、情報システム設計作業の効率化のため、主に業務設計事例のテンプ レート化を進め解決を図ってきた。

[0003]

【発明が解決しようとする課題】

しかしながらテンプレートでは、業務活動と情報流を効率よく定義する方法が 考慮されておらず、また、あるひとつの業務活動についての活動や情報の一見性 も考慮されていない。

本発明の目的は、かかる従来方法で考慮されなかった点に着目し、企業活動に関わる活動、情報を効率的に定義する方法、当該活動、情報を一覧して見る方法を提供することにある。

[0004]

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、本発明は、企業情報流処理方法であり、ある企業の業務活動、外部組織活動を活動名とし各活動名を第1の記憶手段に記憶し、該記憶手段から該各活動名をDFD(Date Flow Definition)マトリクスに読み込み、該DFDマトリクスを表示する。そして、その表示領域上で、前記要素間(活動名間)で授受される情報の名称の入力を受け付け、入力された情報の名称を、情報提供元である業務活動、外部組織と情報利用先である業務活動、外部組織と関連づけて、ER(Entity Relation)元情報として第2の記憶手段に記憶するようにしている。

また、本発明は、設計帳票作成方法であり、ある企業の業務活動、外部組織活動を活動名とし各活動名を第1の記憶手段に記憶し、該記憶手段から該各活動名をDFDマトリクスに読み込み、該DFDマトリクスを表示し、その表示領域上で、前記要素間(活動名間)で授受される情報の名称の入力を受け付け、入力された情報の名称を、情報提供元である業務活動、外部組織と情報利用先である業務活動、外部組織と関連づけて、ER元情報として第2の記憶手段に記憶する。そして前記第1の記憶手段と第2の記憶手段に記憶された情報に基づいて、活動名の情報とその要素間(活動名間)で授受される情報の関連を示すDFDマトリクスを作成し、活動名の名称や位置が変更或いは削除になった場合、情報名の名称や位置が変更或いは削除になった場合、情報名の名称や位置が変更或いは削除になった場合、情報名の名称や位置が変更或いは削除になった場合は、前記第1の記憶手段と第2の記憶手段にその内容を反映させることでDFDマトリクスを速やかに再作成するようにしている。

また、本発明は、設計帳票作成方法であり、前記第1の記憶手段に記憶された情報を参照し、活動名の詳細化を行うためのSDF (Structured Date Flow)を作成するとき、該第1の記憶手段の該作成対象の活動名に対しフラグを入力し、それと同じ活動名を有するデータを前記第2の記憶手段から抽出し、該抽出したデータを用いてSDF入力画面を生成するようにしている

また、ある活動名のSDF入力画面に対して、その詳細化活動名の入力を受け付け、入力された詳細化活動名を前記第1の記憶手段に書き込み活動名の更新処理をし、該活動名の更新処理をした第1の記憶手段と前記第2の記憶手段に記憶された情報に基づいてDFDマトリクスを再作成するようにしている。

また、前記第1の記憶手段と前記第2の記憶手段に記憶された情報に基づいて 業務機能設計テーブルを表示し、該テーブルの各エントリの指定領域に対し機能 項目のシステム化要件を入力して新機能記述書を作成し、該新機能記述書を第3 の記憶手段に記憶し、印刷するようにしている。

また、前記第1の記憶手段と前記第2の記憶手段に記憶された情報に基づいて 業務情報設計テーブルを表示し、該テーブルの各エントリの指定領域に対し情報 項目のシステム化要件を入力して入出力情報項目一覧を作成し、該入出力情報項 目一覧を第4の記憶手段に記憶し、印刷するようにしている。

また、ある企業の実際の業務運用を考慮し、前記第1の記憶手段と前記第2の記憶手段からそれぞれ活動名と情報名を読み出し、時系列に該読み出した活動名と情報名を交互に選択し、その選択活動名と情報名と順序を第5の記憶手段へ記憶し、該記憶手段から記憶内容を順次読み出すことによりイベントトレース図を作成するようにしている。

[0005]

【発明の実施の形態】

以下、本発明の一実施形態として、ある企業の業務活動に係わる情報流を定義 処理する方法及び設計帳票を作成する方法について図面を用いて説明する。

図1および図9から図12は本発明に係る情報流定義と設計帳票作成を支援する装置の処理手順の例を示すフローチャートである。

図2はある企業の情報提供元である業務活動、外部組織と情報利用先である業務活動、外部組織との間に流れる情報を一覧するためのDFD (Date Flow Definition) マトリクスの一例である。

図3は情報提供元或いは情報利用先である、ある企業の業務活動、外部組織を 管理する活動名テーブルのフォーマットの一例である。

図4はある企業の情報提供元である業務活動、外部組織と情報利用先である業務活動、外部組織との間に流れる情報を管理するER元情報テーブルのフォーマットの一例である。

図5はある業務活動、外部組織における情報の流れに着目し、その活動の詳細化を行う時に利用するSDF (Structured Date Flow) 入力画面の一例である。

図 6 は機能項目のシステム化要件を管理するための業務機能設計テーブルのフォーマットの一例である。

図7は情報項目のシステム化要件を管理するための業務情報設計テーブルのフォーマットの一例である。

図8はある業務活動、外部組織と情報の流れを、業務の運用を意識し、時系列に表現したイベントトレース図の一例である。

図13から図17は企業情報流定義及び設計帳票作成装置の構成の一例を示す

。装置における処理を行うためのプログラム毎に図を別にして(図13~図17) 説明しているが、図13から図17に示す構成は一つの装置に含まれる構成である。

[0006]

図2のDFDマトリクスにおいて活動名欄(横)(201)は図3の活動名テーブルに格納された活動名を活動名テーブル2列目(302)の分類キーの昇順に左から右へ保管する。

活動名欄(縦) (202) は図3の活動名テーブルに格納された活動名を活動 名テーブル2列目(302)の分類キーの昇順に上から下へ保管する。

活動名欄(斜) (203) は図3の活動名テーブルに格納された活動名を活動名テーブル2列目(302)の分類キーの昇順に左斜め上から左斜め下へ保管する。

活動名が保管された以外の情報名欄は活動名と活動名の間を行き来する情報名 を保管する。

[0007]

図3の活動名テーブルのフォーマット例において、1列目(301)は最も詳細化された活動名を保管する。

2列目(302)は当該活動名を並び替える際に活用する数字である分類キー を保管する。

3列目(303)は1列目(301)に保管された詳細化された活動名の親関係にある、中分類の活動名を保管する。

4列目(304)はDFDマトリクス(図2)への表示活動名を中分類にする際のフラグを保管する。

[0008]

図4のER元情報テーブルにおいて1列目(401)は、情報の提供元となる 活動名を保管する。

2列目(402)は、当該提供する情報の情報名を保管する。

3列目(403)は情報の利用先となる活動名を保管する。

[000.9]

「図5のSDF入力画面において、活動名欄(501)は詳細化する対象の活動 名を保管する。

詳細活動名欄(502)は、活動名欄(501)に保管された活動名を、当該活動名に対する入力情報(503,504)と出力情報(505,506)に着目し、詳細化した活動名を保管する。

提供元活動名欄(503)には活動名欄(501)に保管された活動名への入力情報を提供する活動名を保管する。

情報名(入力)欄(504)は、活動名欄(501)に保管された活動名に対して、同じ行の提供元活動名欄(503)の活動名が提供した情報を保管する。

情報名(出力)欄(505)は活動名欄(501)に保管された活動名に対して、同じ行の利用先活動名欄(506)の活動名が利用する情報を保管する。

利用先活動名欄 (506) は、活動名欄 (501) に保管された活動名への出力情報を利用する活動名を保管する。

[0010]

図6の業務機能設計テーブルのフォーマット例において、1列目(601)は 、情報名を提供する活動名を保管する。

2列目(602)は、1列目(601)に保管された提供元活動名から提供された情報を保管する。

3列目(603)は、2列目(602)に保管された情報を利用する活動名を 保管する。

4列目(604)は利用先活動名(603)が利用する情報(602)を提供する活動名(601)に関する、機能面に着目したシステム化要件を保管する。

5列目(605)は、利用先活動名(603)が利用する情報(602)を提供する活動名(601)に関する、活動内容を保管する。

6列目は、4列目(604)に保管されたシステム化要件を実現する上での課題を保管する。

[0011]

図7の業務情報設計テーブルのフォーマット例において、1列目(701)は 、情報名を保管する。

特2001-192324

2列目 (702) は、1列目 (701) に保管された情報名を提供する活動名 を保管する。

3列目(703)は、1列目(701)に保管された情報を利用する活動名を 保管する。

4列目(704)は提供元活動名(702)、利用先活動名(703)に着目 し、情報名(701)に関する、情報面に着目したシステム化要件を保管する。

5列目 (705) は、システム要件 (704) を実現するためのキー項目を保管する。

6列目 (706) は、システム要件 (704) を実現するための入力項目を保 管する。

[0012]

8図のイベントレース図例において、行カウンタ欄(801)は、現在処理を 実行しているイベント記憶欄(803)の行数を保管する。

活動名欄 (802) は、活動名テーブル (図3) の1列目 (301) に保管されている活動名を、分類キー (302) の昇順に左から右へと保管する。

イベント記録欄 (803) はイベントトレーステーブルから抽出した、活動名と情報名を交互に保管する。

[0013]

図13において、1は処理装置であり、2は入出力装置であり、3は活動名テーブル格納ファイルであり、4はER元情報格納ファイルであり、5はプリンタであり、6は活動名テーブル・ER元情報テーブルファイル入出力プログラムであり、7はDFD作成プログラムであり、8はDFDマトリクスデータ画面入出力プログラムであり、9はDFDマトリクス出力プログラムである。

処理装置1は活動名テーブル格納ファイル3、ER元情報テーブル格納ファイル4とのデータテーブルの入出力や、DFDマトリクスデータの入出力装置2とのやりとりや、DFDマトリクスをプリンタ5へ出力する処理を行う。

入出力装置2はDFDマトリクスデータを表示したり、DFDマトリクスに対するデータの入力処理を行う。

活動名テーブル格納ファイル3は、活動名テーブル(図3)を格納する。